

令和4年度「自己点検・自己評価」 前年度評価結果および他校評価*との比較

*他校評価は、R4年度学校間相互評価校である栃木医療センター附属看護学校による評価

【評価基準】 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

I. 教育理念・目標 ※網掛け・下線部分：昨年度評価と異なる箇所、赤字：他校評価が自己評価と異なる箇所

| 評価項目 | R3年度 自己評価 | R4年度 自己評価 | R4年度 他校評価 |
|---|--------------|--------------|--------------|
| 1. 理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特徴が明確になっているか） | 4 | 4 | 4 |
| 2. 学校における職業教育の特色は何か | 4 | 4 | 4 |
| 3. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 4 | 4 | 4 |
| 4. 学校の理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか | 4 | 4 | 4 |
| 5. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 4 | 4 | 4 |
| 平均点 | 4.0 | 4.0 | 4.0 |

II 学校運営

| 評価項目 | R3年度 自己評価 | R4年度 自己評価 | R4年度 他校評価 |
|---|--------------|--------------|--------------|
| 1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか | 4 | 4 | 4 |
| 2. 事業計画に沿った運営方針が策定されているか | 4 | 4 | 4 |
| 3. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 4 | 4 | 4 |
| 4. 人事・給与に関する制度は整備されているか | 4 | 4 | 4 |
| 5. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 4 | 4 | 4 |
| 6. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 4 | 4 | 4 |
| 7. 教育活動等に関する情報公開が適正にされているか | 4 | 4 | 4 |
| 8. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 3 | 3 | 4 |
| 平均点 | 3.9 | 3.9 | 4.0 |

III 教育活動

| 評価項目 | R3年度 自己評価 | R4年度 自己評価 | R4年度 他校評価 |
|--|--------------|--------------|--------------|
| 1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 4 | 4 | 4 |
| 2. 教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4 | 4 | 4 |
| 3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4 | 4 | 4 |
| 4. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 4 | 4 | 4 |
| 5. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 4 | 4 | 4 |
| 6. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | 4 | 4 | 4 |
| 7. 授業評価の実施・評価体制はあるか | 3 | 3 | 3 |
| 8. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 | 4 | 4 |
| 9. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 4 | 4 | 4 |

| | | | |
|---|-----|-----|-----|
| 10. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 4 | 4 | 4 |
| 11. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 4 | 4 | 4 |
| 12. 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務をむ)を確保するなどマネジメントが行われているか | 4 | 4 | 4 |
| 13. 関係分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 4 | 4 | 4 |
| 14. 職員の能力開発のための研修等が行われているか | 4 | 4 | 4 |
| 15. 教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)しているか | 4 | 4 | 4 |
| 16. 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えているか | 4 | 4 | 4 |
| 平均点 | 3.7 | 3.7 | 3.7 |

IV 学修成果

| 評価項目 | R3年度 自己評価 | R4年度 自己評価 | R4年度 他校評価 |
|---|--------------|--------------|--------------|
| 1. 就職率の向上が図られているか | 4 | 4 | 4 |
| 2. 資格取得率の向上が図られているか | 4 | 4 | 4 |
| 3. 退学率の低減が図られているか | <u>3</u> | <u>2</u> | 3 |
| 4. 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか | 3 | 3 | 3 |
| 5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか | 3 | 3 | 3 |
| 平均点 | <u>3.4</u> | <u>3.2</u> | 3.4 |

V 学生支援

| 評価項目 | R3年度 自己評価 | R4年度 自己評価 | R4年度 他校評価 |
|--|--------------|--------------|--------------|
| 1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 4 | 4 | 4 |
| 2. 学生相談に関する体制は整備されているか | 4 | 4 | 4 |
| 3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | 4 | 4 | 4 |
| 4. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 4 | 4 | 4 |
| 5. 課外活動に対する支援体制は整備されているか | <u>4</u> | <u>3</u> | 4 |
| 6. 学生の生活環境の支援は行われているか | 4 | 4 | 4 |
| 7. 保護者と適切に連携しているか | 4 | 4 | 4 |
| 8. 卒業生への支援体制はあるか | 4 | 4 | 4 |
| 9. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 4 | 4 | 4 |
| 10. 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか | 3 | 3 | 4 |
| 平均点 | <u>3.9</u> | <u>3.8</u> | 4.0 |

VI 教育環境

| 評価項目 | R3年度 自己評価 | R4年度 自己評価 | R4年度 他校評価 |
|---|--------------|--------------|--------------|
| 1. 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 3 | 4 | 4 |
| 2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 3 | 4 | 4 |
| 3. 防災に対する体制は整備されているか | 3 | 3 | 4 |
| 平均点 | 3.0 | 3.7 | 4.0 |

VII 学生の受け入れ募集

| 評価項目 | R3年度 自己評価 | R4年度 自己評価 | R4年度 他校評価 |
|--------------------------------|--------------|--------------|--------------|
| 1. 学生募集活動は、適正に行われているか | NA | NA | NA |
| 2. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | NA | NA | NA |
| 3. 学納金は妥当なものとなっているか | NA | 4 | 4 |
| 平均点 | NA | 4.0 | 4.0 |

VIII 財務

| 評価項目 | R3年度 自己評価 | R4年度 自己評価 | R4年度 他校評価 |
|-----------------------------|--------------|--------------|--------------|
| 1. 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか | 3 | 3 | 4 |
| 2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4 | 4 | 4 |
| 3. 財政について会計監査が適正に行われているか | 4 | 4 | 4 |
| 4. 財務情報公開の体制整備はできているか | 4 | 4 | 4 |
| 平均点 | 3.8 | 3.8 | 4.0 |

IX 法令等の遵守

| 評価項目 | R3年度 自己評価 | R4年度 自己評価 | R4年度 他校評価 |
|----------------------------------|--------------|--------------|--------------|
| 1. 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4 | 4 | 4 |
| 2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 | 4 | 4 |
| 3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか | 4 | 4 | 4 |
| 4. 自己評価結果を公開しているか | 4 | 4 | 4 |
| 5. 学生や保護者が自由に意見を言える体制が整備されているか | 3 | 4 | 4 |
| 平均点 | 3.8 | 4.0 | 4.0 |

X 社会貢献・地域貢献

| 評価項目 | R3年度 自己評価 | R4年度 自己評価 | R4年度 他校評価 |
|--|--------------|--------------|--------------|
| 1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | <u>4</u> | <u>3</u> | 4 |
| 2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 4 | 4 | 4 |
| 3. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか | <u>2</u> | <u>3</u> | 3 |
| 平均点 | <u>3.3</u> | <u>3.3</u> | 3.7 |

XI 国際交流（必要性に応じて）

| 評価項目 | R3年度 自己評価 | R4年度 自己評価 | R4年度 他校評価 |
|---|--------------|--------------|--------------|
| 1. 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか | <u>1</u> | NA | NA |
| 2. 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか | NA | NA | NA |
| 3. 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか | NA | NA | NA |
| 4. 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか | <u>1</u> | <u>3</u> | 3 |
| 平均点 | <u>1.0</u> | <u>3.0</u> | 3.0 |

令和4年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画の評価

1. 質の高い教育の維持・向上

- 1) 看護師国家試験合格率 100%
- 2) 3年間の継続した学習支援対策（特に成績不審者への支援強化）

⇒教員会議で学生の学習状況を報告し情報を共有、成績不審者への学習支援の方法について話し合い実施した。
2年次は基礎看護学実習Ⅱの前に看護過程の学習会や成績不審者への個別学習会を実施し、単位未修得による途中退学者が出ないように支援を行ったが、退学6名（学業不振2名、体調不良2名、進路変更2名）で退学者の減少にはつながらなかった。
3年次は国家試験模擬試験を適時実施し、全国区の中での現状を把握、成績低迷者に対し個別の学習支援を行った。自己採点では必修は全員8割以上クリアでき、一般・状況設定問題は業者の予想ボーダーラインをクリアできている。

2. 学生支援の強化

- 1) 学生のキャリア支援(就職・進学)
- 2) 閉校に伴う学生数の減少 自治会活動の支援
- 3) 学生間、教員と学生間の良好な学習環境を確保

⇒定期的に進路面接を行い、学生の就職・進学支援を行った。2年次には母体病院と長野県・山梨県内のNHO病院の就職説明会を開催し、卒業生から直接話を聞く機会を設け就職病院の選択につながるようにした。また、3年次は小論文対策や就職試験での面接練習、出願書類指導等を行った。県内のNHO病院の採用枠の関係で第1希望の病院に就職できず、第2希望以降の県外の病院に就職となった学生がおり、昨年度よりも県内就職率が下がったが（令和3年度75.9%、令和4年度72.4%）、NHO就職率は昨年同率の89.7%であった。
今年度から2学年のみとなり、従来の学生自治会の役割分担では活動に支障が生じるため、教員が学生と調整・相談し、自治会の活動支援を行っている。また、カリキュラム満足度調査を7月と3月の年2回行い、挙げられた課題について教員会議で検討し、検討結果は学生に伝え改善に向けた取り組みを実施している。

3. 学校経営基盤の安定化

- 1) 学生数減少に伴い経費の削減 5S・エコ活動
- 2) 時間外勤務の削減、業務整理

⇒学生数減少に伴い授業料収入が減少するため、できるだけ無駄をなくし経費節減と在庫物品の有効活用に努めた。また、新規購入する場合は、必要性の有無を吟味するとともに閉校後の使用用途を考えて購入している。閉校後の物品・図書の委譲・破棄に備え、台帳の整備を行った。また、閉校記念誌作成に向けて、長期休暇中に教職員全員で倉庫の片付け、整理を行った。
時間外勤務の削減については、令和3年度に遅出・早出業務の見直しにより対前年で超過勤務時間を3割削減できている。今年度は学年数の減少、入試業務もないのでさらに前年比で1割削減できるように取り組んだ。令和3年実績は総時間309時間に対し、令和4年度は2月末までで166時間35分であった。

4. 教員の教育力・管理能力の向上

- 1) 研究授業を通し学生の意欲向上にむけた授業展開
- 2) TNAD(看護教員能力開発プログラム)に沿った能力の獲得
- 3) 授業評価結果の活用
- 4) 学校カリキュラム評価年2回の実施と結果の活用

⇒研究授業を学外・学内併せて全員の教員が実施し、授業改善に向けた取り組みを行った。また、研究活動支援やTNADの活用による能力開発の支援を行っている。その他、教員の管理能力向上のため、臨床管理研修への参加(2名)やファーストレベル研修受講を行っている。
カリキュラムの改善に向けて講師の終講時にGogleフォームを用いた授業アンケートを行い、講師にフィードバックした。また、学生のカリキュラム満足度調査を7月と3月に実施し、評価結果からあがった課題の改善策について教員会議で検討し実施した。

5. 職務満足度の向上

- 1) ワークライフバランスの推進 年次休暇の計画的な取得
- 2) 研究活動の推進
- 3) 働きやすい職場環境づくり

⇒ワークライフバランスの推進として、昨年度に引き続き、月 1 日を目安に計画的な年休取得を行った。令和 3 年度実績一人平均 18.8 日には及ばなかったが、令和 4 年度の暫定平均 16.4 であった。また、育児時間を取得している教員が定時で退庁できるように、教員間で互いに協力し業務調整を行っている。

教員研究日は研究活動に専念できるように教員間で業務を調整した。また、大変な業務を抱えている場合は、役割を分担しながら一人に業務負荷がかかりすぎないように互いに協力し調整している。

6. 閉校準備

- 1) 閉校準備委員会の定期開催（記念誌）
- 2) 学籍簿の整理
- 3) 閉校に伴う物品の整理

⇒閉校に向けての工程表を作成し準備にあたっている。各担当に分かれて作業を行い、毎月第 3 水曜の

教員会議で進捗状況を報告、情報共有と学内検討を行っている。また、病院職員を含めた委員で構成する閉校準備委員会規程を策定し、規程に則り閉校準備に関する事項について協議、学校運営会議で最終決定している。

【令和 5 年度 看護学校目標】

1. 質の高い教育実践

- 1) 看護師国家試験合格 100%を目指す
- 2) 学生のキャリア支援（学修、就職・進学）を行う
- 3) 授業評価の中間評価（授業改善評価）の実施と結果の活用
- 4) 学校カリキュラム評価年 2 回の実施と結果の活用
- 5) 学生による卒業時満足度の全体平均 3.4 以上を目指す

2. 教員の教育力・管理能力の向上

- 1) TNAD(看護教員能力開発プログラム)による教員個々のキャリア育成
- 2) 研究活動および学会発表を支援
- 3) 研究授業、研修参加を推進
- 4) 受講した研修の伝達講習による学びの共有

3. 健全な学校経営

- 1) ハラスメントのない職場にする
- 2) 働き方見直しと効率的な時間管理の体制整備
- 3) 年次休暇の計画的な取得
- 4) 経費節減に向けた努力（保有資材の有効活用、節電・節水 等）

4. 閉校に伴う業務の遂行

- 1) 閉校記念誌作成、閉校記念式典を滞りなく行う
- 2) 学籍簿の整理と本部移管
- 3) 関連法に規定された各種届出
- 4) 教材・図書、備品の譲渡

【自己評価結果に対する学校関係者評価委員の意見】

- ・授業評価及び卒業時満足度評価の改善方策に対して

「授業評価」を今は「授業改善アンケート」と表現して調査している。授業の終講まで待たずに、授業の中間評価を実施し、改善につなげると良い。

授業の中間評価を実施することで、終講する前にその意見が反映でき、また、改善されたことが学生にも伝わり最終的に評価結果も上がる。何か学生が感じていることを授業中にも伝える工夫をしてみても良いのではないか。

- ・看護人材育成に対して

今の学生は個人主義で他人に関心がないと言われている。看護者となる人の心を醸成し、他者に関心を持つ力を養う必要がある。

【令和4年度評価に対する学校間相互評価校の意見】

令和5年3月13日
独立行政法人国立病院機構
栃木医療センター附属看護学校

1. 質の高い教育の維持・向上

学生の退学理由は、学生個々の理由（学業不振、体調不良、進路変更）によるものであった。退学を考えるきっかけとして基礎看護学実習Ⅱの評価が出た後だったが、実習前に十分な学習支援も行っており成績低迷者への指導も特に強化していたことから、学校側の対応は適切に行われていたと考える。本人の意志を尊重して、進路変更を後押しできたことは良かったと感じた。限界を感じている状況で学業を続ける方が精神的に学生を追いつめる結果にもなりかねない為、適切な支援が行えていると考える。

国家試験対策についても教員間で連携を図り、適切に行えており、結果につながっていると考える。

2. 学生支援の強化

適宜面接を行うことで学生のニーズを把握し、進学や就職支援が行えていたと考える。卒業生から直接話を聞く機会を設けたり、母体病院と長野県・山梨県内のNHO病院の就職説明会を開催する等、学生が施設を選択しやすい環境を作り支援できたと考える。実際の採用試験においては、小論文対策や就職試験での面接練習、出願書類指導等を行ったことで県内就職率やNHO就職率が維持できていると考える。

カリキュラム満足度調査を年2回(7月と3月)実施しており、学生の意見を共育に反映させながら、取り組むことを継続できていることは学校の強みであり、今後も継続して行ってほしい。

3. 学校経営基盤の安定化

看護学校の閉校に伴い、学生数の減少と授業料収入が減少するのは仕方ないことである。科目履修においては、年々、講義科目が減る為、講師へ支払う謝金(交通費含む)も減る。実習施設への謝金は例年同様であり問題はないと考える。また、母体病院の病床稼働率99%以上の為、学校に係る費用負担が任せられ、学校経営基盤は安定している。教員もコスト意識を強く持ち、無駄を省く努力や、経費節減と在庫物品の有効活用に努めたり、新規購入物については、必要性の有無を吟味するとともに閉校後の使用用途を考えて購入できており、問題はないと考える。

閉校準備として、閉校後の物品・図書委譲・破棄に備えた台帳の整備、倉庫内の片付け、閉校記念誌作成に向けた準備等に取り掛かるなど、本来の業務以外にも時間を割きながらも、時間外勤務の削減にも努められていた。教員間の協力・連携と工夫により、超過勤務時間の削減ができていた。

4. 教員の教育力・管理能力の向上

研究授業(学外・学内併せて)が、全教員実施できており、参加者からの意見を反映させて授業改善に向けた取り組みの実施等、教育の質の維持・向上に努めることができていた。また研究活動支援やTNADの活用による能力開発の支援が行えており、教員の管理能力向上のため、臨床管理研修への参加(2名)やファーストレベル研修受講が行えたことは良かったと考える。

学生による授業評価もできており、カリキュラムの改善に向けて、講師へのフィードバックにも活用できており効果的であったと考える。また、学生のカリキュラム満足度調査を7月と3月に実施し、評価結果からあがった課題の改善策についても教員会議での検討ができており良かったと考える。

5. 職務満足度の向上

ワークライフバランスの推進では、月1日を目安に計画的な年休取得の目標があり年休取得が平均16.4人以上であり、育児時間を取得している教員が定時で退庁できるように、教員間で互いに協力し業務調整を行う等、働きやすい職場環境になっている。

教員研究日は研究活動に専念できるように教員間で業務を調整したり、業務で多重課題となっている際は、役割を分担しながら一人に業務負荷がかかりすぎないように互いに協力し調整できていた。

6. 閉校準備

閉校に向けた工程表に則り、教員はもとより、病院職員との連携を図り、委員会を構成して取り組むなど、組織的に活動できていると感じた。教員会議での検討や情報共有と、閉校準備委員会、学校運営会議で必要な討議がなされ、着々と準備が進められていると感じた。